

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

**エントリー学校名：**鹿児島大学教育学部附属中学校

**活動名：**  
 生徒サポートで教師も救う  
 ～不登校生と教師を支える体制づくり～

**解決すべき課題：**  
 教師側 →家庭訪問等を容易にできない。養護教諭任せになってしまう。登校後も、担任任せで、生徒の現状が把握できない。学習支援が十分にできない。一人で抱える責任感  
 生徒側(保護者)→学力への期待が大きい。中学校に行っても、居場所がなく、関わる教師が少ない。対人関係に悩みを抱えているが、授業(学習)に対する意欲は高い。

**目標・方針：**  
 ① 担任・養護教諭だけではなく、チーム、組織として対応する。  
 ② 教室でなければ、学習をすることができないという環境を改善する。 ③ 外部人材を活用する。  
 →学校/学級復帰・上級学校への進学を見据えて、不登校生徒を減少することができるのではないだろうか。

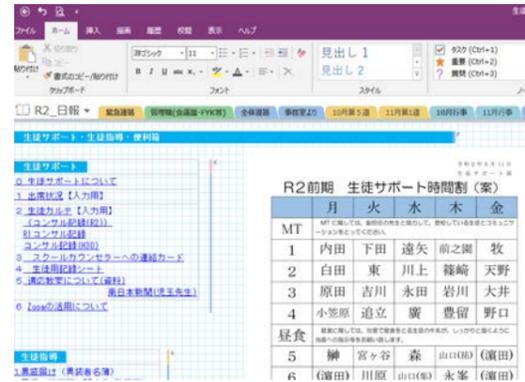
**活動内容：**  
 I 環境を整備する。  
 ・グループウェア/メーリングソフトを用いて、生徒の様子や登校状況を一齐に把握する。  
 ・全職員が1週間に1度は相談室で指導可能な対応時間割を作成する。  
 ・遠隔会議システムの体制を整え、常に教室の「授業」や各種校内「行事」と「生徒(相談室)」をつなぐ。  
 II 各種委員会での情報のシェア  
 ・週に2回の職員朝会后/時間割に位置づけた「週に1回の学年部会」や「週に1回の企画委員会」  
 → 生徒の様子を特別支援教育の視点等を参考に1週間毎に記録に残し、変容や対応を確認する。  
 → 管理職を交えた企画委員会を設定し、生徒の情報共有と指導方針を確認する。  
 III 学部リソースの活用  
 ・スクールカウンセラーと担任をつなぐコンサルテーションを確保する。(やりっぱなしをなしへ)  
 ・臨床心理学研究科の実習生を積極的に受け入れて、生徒との多様な関わりを推進する。

**活動の成果：**  
 ① 不登校生徒の減少→学校に全く来ない生徒は0名  
 ② 学校に来て良かった感の向上(学力保障とコミュニケーション)  
 相談室にいながら、教室に入ることにする怖さの緩和と意欲の維持・向上  
 学習に遅れがちな生徒が、「他学年の授業」を参観することで、復習ができる。  
 ③ 不登校生対応へのクレームの減少→保護者から生徒対応に対する不満の減少

**アピールポイント(アイディアや工夫)：**不登校生と教師を支える4つのシェアリング  
 ① 空間(テレビ会議システムで教室をつなぐ)② 経験(多様な関わりからの情報の共有する)  
 ③ 責任感や負担のシェアリング(担任や養護教諭任せにしないチームとしての対応する)  
 ④ ICTを使った情報(いつでも、誰でも、すぐ対応できるツールを確立する)

**I 環境整備**

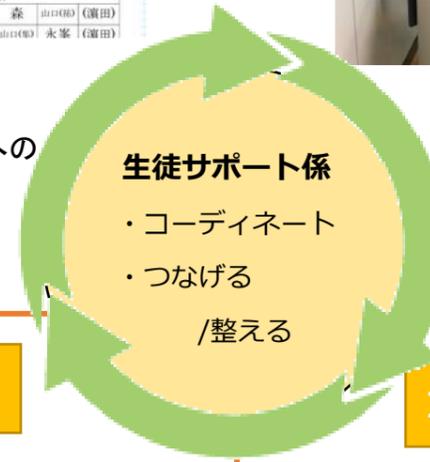
**グループウェアの活用**



**不登校生に応じた学習環境**



- 生徒カルテの作成
- スクールカウンセラーへの連絡カード  
などの書式や資料のシェア
- 遠隔会議システムを用いた教室への学習の参加
- 定期テストの別室受験  
別室テスト監督計画づくりなど



**II 各種委員会でのシェア**  
 ～学級→学年→全体へ～

個人の様子を記録に残しシェア

記録を要する生徒・気になる生徒				前回の部会での懸念事項			
名前	場面	課題	変容	名前	場面	課題	変容
1組	1	D					
	2	B					

変容のシェアリング  
 今週 ← 先週

<カテゴリーで分類>特別支援教育の視点から  
 場面：生活面/学習面/対人面/家庭面  
 課題：生活面なら健康管理上の課題など  
 学習面なら意欲低下などで分類

**III 外部リソースの活用**

- スクールカウンセラーとの連携  
 ・生徒のカウンセリング後の養護教諭または担任とのコンサルテーション  
 ・月に1度の連絡会  
 大学職員、カウンセラー、養護教諭の連携
- 臨床心理学研究科の実習生の活用  
 ・相談相手やストレスマネジメントの指

悩みを早期発見, 早期解決するために・・・

★ 予防的対応のABC(あたりまえのことを ばかにしないで ちゃんとする)

- 実態把握：学校生活アンケート(県教育委員会)、学校楽しいーと(県総合教育センター)
- 教育課程に位置づけられた教育相談、アンケートの結果をふまえた教育相談
- ストレスマネジメント教育 → 道徳科との連携(授業前の呼吸法や漸進性筋弛緩法など)